

## 誤飲 … 異物を誤飲した時

### はじめに

誤飲とは食物以外のものを誤って飲み込んでしまうことを言います。特に3歳未満の子供に発生しやすくその割合は全誤飲件数の90%にもなります。

飲み込む物はタバコが最も多く、次いで玩具や化粧品等です。放っておけば自然と出てくるものから緊急に取り出す必要のあるものまで幅広く、また対応方法も様々です。

### 飲むと特に危険な物

■ 身の回りには危険なものが沢山潜んでいます。どれだけ飲み込んで問題の無いものもありますが中にはほんのわずかな量でも身体に重大な影響を及ぼす物があるのです。

特に以下の物を飲み込んだ場合はすぐに医師の診察を受けるようにして下さい！

タバコ(ニコチンの染み出た灰皿の水は特に危険。) 、 電池 、 石油類(ガソリンや灯油)  
防虫剤 、 殺虫剤 、 殺鼠剤 、 強酸・強アルカリ性洗剤(レンジ用やパイプ用など)  
除草剤 、 漂白剤 、 磁石 、 鋭利なもの

### 誤飲した時のポイント

#### ○ 何をどのくらい飲み込んだのかを確認しましょう

治療するにあたって「一体何をどのくらい飲み込んだのか」というのは非常に重要になります。誤飲した異物の入った容器などを病院に持って行くのが良いでしょう。

#### ○ 医療機関や日本中毒情報センターに連絡しましょう

異物を誤飲して中毒症状が出てきた時(反応・意識低下、下痢、嘔吐など)は最寄の医療機関や日本中毒情報センター(中毒110番・タバコ専用電話)に連絡をして、対処方法を聞きましょう。

中毒110番 大阪 **072-727-2499** (365日24時間対応)

つくば **029-852-9999** (365日9時~21時対応)

※ 中毒110番は化学物質(タバコや家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性中毒について実際に事故が発生している場合のみ情報提供して頂けます。

タバコ専用電話 **072-726-9922** (365日24時間テープによる対応)

☆情報提供料はすべて無料です。(通話料金はかかります。)

#### ○ 無理に吐かせてはいけません

皮膚や粘膜にやけどを起こすものもあるので吐くことで再度食道を傷つけてしまったり吐物が気管や肺に入って肺炎や窒息を起こしてしまう危険性があります。

自発的な嘔吐がある場合のみ止めずに吐かせて下さい。

#### ○ なんらかの症状が出たら

必ず医師の診察を受けて下さい。

反応(意識)が悪かったり嘔吐や下痢がひどい時は迷わず救急車を呼びましょう。

#### ※ 誤飲を防ぐために！

■ 乳幼児には成長過程の中で何でも口に入れてしまう時期があります。(生後5ヶ月から)自身では危険の判断もできないので、誤飲させない環境づくりが何よりも大切なのです。普段から整理整頓を心がけ、危険なものは子供の手の届かない所に保管しましょう。